



はていはてい

HATI-HATI

HATI-HATIはインドネシア語で相手を思いやる時に使うやさしいことばです。

夏といえば、皆さんは何を思い浮かべますか？

甘くてみずみずしいスイカ、元気に鳴くセミ、涼しいプール、そしてワクワクする旅行...。日本には、心躍る夏の風物詩「盆踊り」があります。センターでは、地域のお祭りに参加するため、みんなで笑顔いっぱいの踊りの練習をしました。最初は息が合わず戸惑いましたが、動きがそろうにつれて、自然と笑顔も増えていきました。

当日はあいにくの雨でお祭りは中止となりましたが、みんなで力を合わせ、一つになれた時間は、夏の大切な思い出になりました。



子どもを大人にしない国ニッポン

公益社団法人トレイディングケア 理事 塚本 紀之

2023年6月、朝日新聞の国際欄に小さな記事が載った。その記事のスペースは小さかったが、先進国では大きな衝撃を持って受け取られた。記事は、「南米コロンビアで5月初旬、小型機がジャングルに墜落し搭乗していた子ども4人だけで約40日を生き延び、世界中で驚きをもって伝えられた」と記されていた。

墜落時、母親にはまだ息があり、13歳の長女に妹弟3名を連れて生き延びるようジャングルに入ることを指示した。そして、その後、動けない母親は旅立った。後を任せられた長女は9歳、5歳、11ヶ月の妹弟とともにアマゾンの密林へ入った。サバイバルのためだ。

長女は、木の実や種を食料として妹弟に与えていた。しかし、この時期の種は熟しておらず食べるには適さない。その種を口の中で、唾液と体温で種をほぐして下の者に与えていたらしい。発見時、長女は、頬と歯ぐきとの間になかを蓄え、ゆっくりと口を動かしていたとのこと。それはこの地域に自生するアマゾンココヤシの種だったと報告される。

40日間の密林サバイバル後、子どもたち4人は発見され保護された。そして、世界中の多くのメディアが注目した。しかし、メディアの多くは先進地域である。人は一人前になるのに時間がかかる。そして、その時間は地域や文化によって違いがある。子どもを子どもとして可愛がり、保護するには、それができる経済力と環境が必要である。途上国では子どもも含めて労働力であるかもしれない。それは大人扱いを意味する。その意味では日本は世界で最も「子どもを大人にしない」国の一つといえるかもしれない。この観点から外国人、特に途上国出身者を見ると、彼ら、彼女らに日本人が失ってしまったたくましさを感じるかもしれない。

今月の日本語

「日本語の起源?のタミールからのお客様」
日本語教師 林 三郎

8月末に、一人のインド人技術者がインドに帰られました。彼の名はラジェシュさん。インドからの長期出張で愛知県の企業に来て、高浜に住んでおられ、当センターにも日本語の勉強と交流のために毎週土曜日には必ず来られていました。彼は南インド・タミール地方の出身です。

国語学者の大野晋（すすむ）教授がかつて、「タミール語が日本語の起源である」と、両言語の類似性を膨大な単語や文法の比較研究によって説明し、「日本語の起源」などの書物で発表され、当時は大きな話題になりました。ラジェシュさんにそのことを話すと、驚いたことに彼もそのことを知っていました。「タミール語・日本語起源説」はその後反論もあって確定したものではありません。それでも、日本から7000キロ彼方の南インドと日本の弥生時代？の頃の私たちの祖先がつながっていたのかもしれない、なんて壮大なロマンを感じます。

そんなことがきっかけになり、親交が深まり、彼の紹介で名古屋の尾頭橋にある南インド料理店「マルドウ」にもみんなで行きました。印度料理なのですが、なぜか食べやすく、懐かしいような感じを受けたのも何か不思議な縁を感じました。



↑ラジェシュさん（写真右）

スウェーデンは「職業と教育を行き来しやすい社会」（両角 2012）といわれています。教育が原則無償で受けられること、休暇や学習手当などの所得保障が整備されていることによって、フルタイムで働く人も、失業をした人も、学び直しがしやすい環境があるためです。また、在留資格に関係なく、全ての市民に教育(義務教育、職業教育、成人教育など)へのアクセスが保障されているのもスウェーデンの特徴です。各国の移民政策を評価する指標に「移民統合政策指数」というものがあります。2020年のレポートで、スウェーデンは、「教育」という評価項目では56カ国中1位、「労働市場における流動性」では56カ国中2位という高い評価でした。実際、スウェーデンへ来て7~10年経つ外国人介護職員に将来の計画について尋ねた際、「今の職場で働きながら大学で看護か建築の勉強をしてみたい」(セルビア出身・30代女性)、「近い将来、大学院でデザインの修士号を取得したい」(コンゴ出身・30代女性)という答えが返ってきました。外国人介護職員の将来設計にも「職業と教育を行き来しやすい社会」が反映されていると感じました。

参考 ①Solano, Giacomo and Thomas Huddleston, 2020, 'Migration Integration Policy Index 2020' (移民統合政策指数)

②両角道代, 2012, 「スウェーデンにおける若年者雇用と職業能力開発――高等職業教育(YH)を中心に」『日本労働研究雑誌』, 619: 54-63.

編集後記

今年の夏も暑い日が続いていますね。7月に来日した15期生の技能実習生たちも、日本の夏の厳しい暑さに驚いていました。それでも、講習の中でそうめんを味わったり、休日には夏祭りに出かけたりと、日本の夏を楽しんでいました。年々暑い日が増えていますが、技能実習生や外国人の方々とともに日本の四季の魅力を感じながら過ごしていきたいと思っています。 鶴見



↑食事介助の練習中

ベトナム人の楽しいお話

～ 日本の児童センター大変ありがたい～



夏休みといえば、長いお休みですね。その時期、子どもたちはとてもわくわくしています。学校がなく、宿題も少ないので、たくさん遊べる時期です。でも、親たちはどう思っているのでしょうか？保育園に通っている子どもなら、まだ預けることができますし、中学生以上なら一人で家にいることもできるかもしれません。でも、小学生はどうでしょうか？

ベトナムでは、ほとんどの場合、おばあさんやおじいさんに子どもの世話をお願いしています。でも、私は外国人なので、日本には祖父母がいません。どうすればいいのでしょうか。

日本でとても助かっているのは、「児童クラブ」の中にある「キッズセンター」というサービスです。小学生が長い休みの間、無料で利用できます。とても助かりました。

そこでは、子どもが遊んだり、自分で夏休みの宿題をやったり、本を読んだりすることができます。何より大切なのは、安全な場所だということです。だから親たちは安心して仕事ができます。本当にありがとうございます。

ホン



スウェーデンにおける教育と外国人介護職員の将来設計



公益社団法人トレイディングケア
〒444-1303

愛知県高浜市小池町6-5-6

TEL 0566-57-7700

FAX 0566-57-7700

日・月・祝日はお休みです。